

## プレス用プロフィール

RFA

藤村龍至

東京藝術大学美術学部建築科准教授 / RFA 主宰

### ■字数制限なし (1144 字)

1976 年東京生まれ。2008 年東京工業大学大学院博士課程単位取得退学。2005 年より藤村龍至建築設計事務所(現 RFA)主宰。2010 年より東洋大学専任講師。2016 年より東京藝術大学准教授。建築設計やその教育、批評に加え、公共施設の老朽化と財政問題を背景とした住民参加型のシティマネジメントや、日本列島の将来像の提言など、広く社会に開かれたプロジェクトも展開している。

建築家として住宅、集合住宅、オフィスビルなどの設計を手がけるほか、現代の建築、都市に関わる理論を発表し、建築系、思想系の専門誌などに寄稿を行う。建築や都市に関わるテーマでフリーペーパーや書籍、シンポジウム、トークイベント、ウェブマガジンの企画・制作・編集、展覧会のキュレーション等、メディア関連のプロジェクトを数多く手がける。

主な建築作品に「鶴ヶ島太陽光発電所環境教育施設」(2014)「APARTMENT N」(2014)「家の家」(2012)「小屋の家」(2011)「倉庫の家」(2011)「東京郊外の家」(2009)「BUILDING K」(2008)。

主な著書に『批判的工学主義の建築』(2014)『プロトタイプング—模型とつぶやき』(2014)『アーキテクト 2.0』(2011)『1995 年以後』(2009)。

主なアート作品に「あいちプロジェクト」(2013・国際芸術祭あいちトリエンナーレ)「リトル・フクシマ」(2011・堂島ビエンナーレ)。

主なアーバンデザインプロジェクトに「おとがわプロジェクト」(2015-)「久屋大通再生プロジェクト」(2014)「大宮プロジェクト」(2013-)「鶴ヶ島プロジェクト」(2012-)。

主なキュレーションに「Scaling-Sketches for 2020Tokyo」(hiromiyoshii,2013)「超群島-ライト・オブ・サイレンス」(青森県立美術館,2012)「CITY2.0」(EYE OF GYRE,2010)「超都市からの建築家たち」(hiromiyoshii,2010)。

主な展覧会に「公共建築から考えるアーバンデザインの実験「大宮東口プロジェクト 2015」」(渋谷ヒカリエ,2015)「MAKE HOUSE 木造住宅の新しい原型展」(東京ミッドタウン,2014)「公共建築から考えるアーバンデザインの実験「大宮東口プロジェクト 2014」」(まちラボおおみや,2014)「公共建築から考えるアーバンデザインの実験・大宮東口プロジェクト 2013」(大宮中央デパート,東京藝術大学美術館陳列館,2013)「公共建築から考えるソーシャルデザイン・鶴ヶ島プロジェクト 2012」(渋谷ヒカリエ,2012)「藤村龍至展」(プリズミックギャラリー,2007)。

## プレス用プロフィール

RFA

藤村龍至

東京藝術大学美術学部建築科准教授 / RFA 主宰

### ■450字程度 (457字)

1976年東京生まれ。2008年東京工業大学大学院博士課程単位取得退学。2005年より藤村龍至建築設計事務所(現RFA)主宰。2010年より東洋大学専任講師。2016年より東京藝術大学准教授。主な建築作品に「鶴ヶ島太陽光発電所環境教育施設」(2014)「APARTMENT N」(2014)「BUILDING K」(2008)。主な著書に『批判的工学主義の建築』(2014)『プロトタイピング—模型とつぶやき』(2014)『アーキテクト2.0』(2011)。主なアート作品に「あいちプロジェクト」(2013・国際芸術祭あいちトリエンナーレ)「リトル・フクシマ」(2011・堂島ビエンナーレ)。主なアーバンデザインプロジェクトに「おとがわプロジェクト」(2015-)「大宮プロジェクト」(2013-)「鶴ヶ島プロジェクト」(2012-)。

近年は建築設計やその教育、批評に加え、公共施設の老朽化と財政問題の解決を図るシティマネジメントや、日本列島の将来像の提言など、広く社会に開かれたプロジェクトも展開している。

### ■250字程度 (262字)

1976年東京生まれ。2008年東京工業大学大学院博士課程単位取得退学。2005年より藤村龍至建築設計事務所(現RFA)主宰。2010年より東洋大学専任講師。2016年より東京藝術大学准教授。主な建築作品に「鶴ヶ島太陽光発電所・環境教育施設」(2014)、主な著書に『批判的工学主義の建築』(2014)『プロトタイピング—模型とつぶやき』(2014)。

近年は建築設計やその教育、批評に加え、公共施設の老朽化と財政問題の解決を図るシティマネジメントや、日本列島の将来像の提言など、広く社会に開かれたプロジェクトも展開している。

### ■150字程度 (176字)

1976年東京生まれ。2008年東京工業大学大学院博士課程単位取得退学。2005年より藤村龍至建築設計事務所(現RFA)主宰。2010年より東洋大学専任講師。2016年より東京藝術大学准教授。主な建築作品に「鶴ヶ島太陽光発電所・環境教育施設」(2014)、主な著書に『批判的工学主義の建築』(2014)『プロトタイピング—模型とつぶやき』(2014)。

## プレス用プロフィール

RFA

### ■その他の形式

1976 東京都生まれ

2002 東京工業大学大学院修了

2002-03 バルラーヘ・インスティテュート (オランダ)

2003-08 東京工業大学大学院博士課程

2010-15 東洋大学専任講師

現在、東京藝術大学准教授、RFA 主宰

### 主な編著書

『1995年以後 -次世代建築家の語る現代の都市と建築』 (共編著、2009、エクスナレッジ)

『地域社会圏モデル -国家と個人のあいだを構想せよ』 (共著、2010、INAX 出版)

『設計の設計』 (共著、2011、INAX 出版)

『3・11後の建築と社会デザイン』 (共編著、2011、平凡社)

『アーキテクト2.0 -2011年以後の建築家像』 (共編著、2011、彰国社)

『コミュニケーションのアーキテクチャを設計する』 (共著、2012、彰国社)

『リアル・アノニマスデザイン』 (共編著、2013、学芸出版社)。

『批判的工学主義の建築』 (2014、NTT 出版)

『プロトタイピング—模型とつぶやき』 (2014、LIXIL 出版)

## プレス用プロフィール

RFA

Ryuji Fujimura

Associate Professor, Tokyo University of the Arts.  
Principal Architect, RFA

Born in 1976 at Tokyo, Japan. Architect, editor and curator.

Established ryuji fujimura architects (RFA) in 2005.

Educated in Tokyo Institute of Technology, Graduate School of Architecture until 2008.

Lecturer at Toyo University from 2010 through 2015.

Currenty, Associate professor at Tokyo University of the Arts.

Architectural design and its education, and criticism, and such as city management with public participation in the background of aging and financial problems of public facilities, and the proposal of the future of the JAPAN ARCHIPELAGO and expand the project that is open to society.

In addition to designing of residential and office buildings as an architect, publishing the theories related to the contemporary architecture and urban space. Planning a number of symposiums and events to exchange ideas with architects, artists, designers and critics.

The main architectural works are “Facility for Ecology Education”(2014) , “APARTMENT N”(2014) , “House HOUSE”(2012), “Shed HOUSE”(2011), “Storage HOUSE”(2009), “HOUSE in Tokyo Suburvia”(2009), “BUILDING K”(2008).

The main art works are “Aichi Project”(2013/International Arts Festival Aichi Triennale), “Little Fukushima”(2011/DOJIMA RIVER BIENNALE).

The main publications are “Architecture for Critical Engineering-ism”(2014), “Prototyping: Many Models and Remarks”(2014), “Architect 2.0”(2011), “After 1995”(2009) .

The main urban design projects are “ Otogawa Project”(2015-) , “Nagoya Hisaya Odori Project 2014”(2014), “ Omiya Project”(2013-) , “Tsurugashima Project”(2012-).

The main exhibitions are “The Experiment for Urban Design thinking from Public Architectures--Omiya East Entrance Project 2015”(Shibuya Hikarie, 2015), “ MAKE HOUSE - New Prototypes of Wooden House by Seven Young Architects - ”(Tokyo Midtown, 2014) , “The Experiment for Urban Design thinking from Public Architectures--Omiya East Entrance Project 2014”(machi.labo omiya, 2014), “The Experiment for Urban Design thinking from Public Architectures--Omiya East Entrance Project 2013”(OMIYA CHUO DEPATO,The University Art Museum, Chinretsukan-gallery, 2013), “Social Design Thinking from Public Buildings · Tsurugashima Project 2012”(Shibuya Hikarie, 2012), “process of designing / designing process”(PRISMIC GALLERY, 2007).

The main curated exhibitions are “ Scaling-Sketches for 2020Tokyo”(hiromiyoshii, 2013) , “HYPER ARCHIPELAGO -Light of Silence”(Aomori Museum of Art, 2012), “CITY2.0”(EYE OF GYRE, 2010), “Architects from HIPER VILAAGE” (hiromiyoshii, 2010).